

通知し、又は研究対象者等が容易に知り得る状態に置くための文書

《研究課題名》

がん患者と主要介護者の在宅看取り成否における社会的因子の影響

《研究対象者》

2018年7月から9月に東北大学で行われた「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究4 (JHOPE-4)」の研究にご協力いただいた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方のアンケートの調査結果を東北大学から提供を受けて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記(4)の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

《研究課題名》

がん患者と主要介護者の在宅看取り成否における社会的因子の影響

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2029年5月10日

《研究責任者》 滋賀医科大学 社会医学講座(法医学) 氏名一杉正仁

《意義》 在宅看取りと病院看取りにおける社会的状況の差異が明るみになることで、在宅看取り希望患者家族における社会的介入の手助けになります。

《目的》 本研究では、患者や介護者の経済的および社会的状況が在宅看取りにどのように影響を及ぼすかを探索します。

(3) 研究の方法について

《研究の内容》

本研究は研究方法：2018年5月-7月において行われた遺族によるホスピス緩和ケアの質の評価に関する研究(JHOPE-4)におけるデータセット(在宅看取り N=625、病院看取り N=7603)の東北大学から提供を受けて行います。

《利用し、又は提供する情報の項目》 「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究4 (JHOPE-4)」において集積されたアンケート結果です。

在宅看取り、病院看取り、患者要因(11項目)：年齢、性別、患者の受診期間、患者の月間医療費、年収、経済的理由による患者の治療中断、患者の経済的 well-being、がんで余命3か月の際に痛みを伴っても在宅ケアを望む患者の希望、がんによる痛みを伴っても自宅で死ぬことを望む患者の希望、日常生活動作が不可能な状態でも在宅ケアを望む患者の希望、日常生活動作が不可能な状態でも自宅で死ぬことを望む患者の希望。

主介護者要因(18項目)：介護者の年齢、性別、学歴、健康状態、精神状態、日常的なケアの有無、仕事の有無、介護期間中の家族の死の経験、代替介護者の存在、介護者の話を聞いてくれる人の存在、患者の死に対する介護者の覚悟、介護者の収入、婚姻状況、介護者との同居、介護による自分の時間や計画の犠牲を感じる事、介護による身体的な重荷を大きく感じる事、介護による精神的な重荷を大きく感じる事、介護による経済的な重荷を大きく感じる事。

通知し、又は研究対象者等が容易に知り得る状態に置くための文書

《情報の提供先》

本研究では、東北大学で行なわれたコホート研究 JHOPE-4 のデータを東北大学から滋賀医大へ提供を受け、研究を行ないます。

《情報の提供方法》

東北大学が保有する JHOPE-4 の仮名化されているデータセットの写しを 4 桁のパスコードでロックした状態でメール添付により滋賀医大が受け取ります。パスコードは別途メールで通知されます。

《情報を利用する者の範囲》

研究責任者: 社会医学講座・教授・一杉正仁

分担研究者: 社会医学講座・研究生・平本秀二

既存情報の提供を行う者: 東北大学緩和ケア看護学・教授・宮下光令

《情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

(4) 本研究に関する問い合わせ先

担当者: 滋賀医科大学 所属 社会医学講座(法医学) 氏名 一杉正仁

住所: 520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号: 077-548-2111

メールアドレス: hitosugi@belle.shiga-med.ac.jp